

三太郎旅日記 part1

＜其の1＞檜原村＜共同村：星の見える丘＞倉掛囲炉裏小屋 Vol.1

今日は、建設ユニオンの仲間と檜原に行く。朝、事務局長と待ち合わせて集合場所に向う。今日、檜原村に行く目的は3つある。

- 1、檜原に向かう途中に東京都の高尾霊園がある。その霊園の中にあるトイレを見ることである。トイレは10坪位の大きさを、全部多摩産材を使って作っている。
- 2、昔の仲間4人で最近購入した檜原の土地と山林約8,000坪！私達、団塊の世代のオアシスを見に行くことである。
- 3、小屋の周辺を散策し山や畑を見て回ることである。

途中、檜原村役場の中にある珈琲店「せせらぎ」に寄った。この珈琲店は、店内の机・椅子も檜原産材をふんだんに使っている。マスターは都心部で喫茶店を経営していた事もあり、紳士でコーヒーはこんな田舎にと思える程、味が良い。私は、檜原に来ると時折ここに立ち寄る。また、店内にはPCが設置してあり、観光案内や木の家作りなどの画像が流れている。今日一緒にきている仲間達は画像を見入っていた。

一息ついたので、途中でビール1ケースを買い一路目的地＜倉掛囲炉裏小屋＞向かった。小屋に着くと、20人位の仲間が既にBBQを始めていた。「三太郎御一行が着いたぞー」と言って、迎えてくれた（皆かなりでき上がっていた）。この囲炉裏小屋は私達が購入する最近まで人が住んで居なかった。何しろ、20年前に主がこの村を出て町に行ったきりの事だ。夕方、檜原を後にした。

解散したとはいえ、帰路の途中で誰かが「一杯やろう」との掛け声に、たまたま家で休んでいた事務局員夫妻を呼び出し、八王子駅周辺で22:30頃までドンチャン騒ぎをし気分良く散会した。（三太郎のつぶやき：何しろ無料宴会だ、それで気分が悪い訳ないだろーが、気分が悪いなんぞ言う奴は、次回のスポンサーだ！！！！）

＜其の2＞酔った勢い

知人達と地元で呑んでいると、恩方の話題になり、恩方に在る「養蚕農家 炭焼三太郎小屋」に喫茶店をOPENさせようと言う話になった。コンセプトは醍醐の水&竹炭焙煎コーヒーでとの事。呑んだ勢いで終わりかなー、始りで有ってほしいものだ。

＜其の3＞伊豆半島に三太郎現わる！！

朝05:30起床し伊豆弓ヶ浜行きの（昨夜の準備に念を入れて）仕度をする。07:00から1時間位うたた寝をしたが、08:00に家を出発した。最寄駅まで歩き、電車に乗り集合場所のつくし野駅前にある「喫茶コナ」に09:00を少し回った頃に到着した。モーニングを食べ、相棒の副理事長木村さんと一緒に出発した。

国道246号線を通り、小田原厚木道路を経て一路伊豆に向かう。昼食は、網代にある「漁師小屋」でしようと思っただけで臨時休業なので他を探す事にした。下田に向かってさらに進む。途中、たわいも無い冗談話をしながら伊東辺りを走っていると、相棒の木村さんが腹が空いたとい

うので、伊東駅の近くの寿司屋で昼食にした。1人前2,800円の割には余り美味しく無かった。寿司屋を後にして下田に14:00頃到着。ペリーロード周辺を散策。互いに喉が渴いたので「喫茶シマダ」に入った。

<其の4>伊豆半島に三太郎現わる！！喫茶にて

「喫茶シマダ」で、私は<アンミツ>・相棒の木村さんは<トコロテン>と<コーヒー>を注文した。主は元芸者との事。私は、下田最後の芸者だねとお世辞を言うと満更でもない風だ。年齢は70歳前後で粹な感じのママさんだ。ママさんの方も私達に何処から来たのかと尋ねた。東京と神奈川と答えた。東京には妹が住んでいるとママさんは言って、自分の身の上話をしてくれた。途中2連れの客が来たので、身の上話は中断、残念だが帰ることにした。

<其の5>伊豆半島に三太郎現わる！！本日の宿へ

喫茶店を後にしてペリーロードを歩いていると、相棒の木村さんが花屋を見つけ店員さんに何やら質問をしていた。何でもその花は、<アメリカジャスミン>という花で、幕末にペリーが下田に来た時に唐人お吉に捧げた花だったとの事、作り話にもロマンを感じた。

チェックインを過ぎたので宿に向かうことにした。本日の宿は、「金谷旅館」という130年余の歴史ある旅館だ。建物は素朴な日本建築、風呂は総檜造りだ。玄関を入ると旅館の女将が描いた絵が壁全体に無造作に飾ってある。無口な女中がくねくねした迷路のような廊下と階段を登って部屋まで案内してくれた。茶など一服して、総檜造りの千人風呂に入った。

昨年、大勢の仲間と来た事を思い浮かべながらユックリと風呂に浸かった。風呂から出ると相棒はテレビを付けながらうたた寝している。私も夕食までテレビを見ていた。夕食は18:30。料理が運ばれてくる。伊勢エビ・あわび・マグロの刺身、どれも鮮度が良い。赤ワイン・ビールを二人で呑みながら、明日の計画を練った。21:00頃になると二人とも旅の疲れとシャベリ疲れで寝る事にした。

<其の6>伊豆半島に三太郎現わる！！宿から弓ヶ浜へ

05:30に目を覚ますと隣に相棒がアラワナ格好で寝ている。テレビをつけて今日の天気を確認する。天気は快晴とのことだ。タオル・髭剃り・歯ブラシを持って、相棒を起こさないように檜風呂に向かった。暫くすると、相棒も風呂に入ってきた。朝食を済ました。昼前にエコクラブ事務局と弓ヶ浜で落ち合う事になっているので、何処を移動しているか確認した。小田原厚木に入ったとの事、私達は早目に弓ヶ浜に着くことにし宿を後にした。

<其の7>伊豆半島に三太郎現わる！！最終章

弓ヶ浜に着くと、既に副理事長が待っていた。久しぶりなので近況を報告しあっていた。暫くすると二人が到着した。今日は、事務局の一人が準備した<焼き鳥・タレ>の試食会である。早速、準備に取り掛かる、私と木村氏は邪魔になるので漁港に買い物に行く事にした。市場で伊勢エビ・サザエをお土産に買込んで戻った。丁度準備が出来ていた。まずは、赤ワインを開けて皆で乾杯した。ワインと焼き鳥の取り合わせが美味しい！カレー粉をブレンドした塩焼き・タレ焼きも美味しか

った。約2時間の試食会も成功であった。私は相棒と二人で次の目的地に沼津に向かった。沼津では、相棒の木村氏の友人に会うことになっている。途中松崎にある「小邨」という日本蕎麦屋で昼食を済ませた。相棒の友人と会い、紹介された宿に荷物を置き夜の待ちに繰り出した。魚の美味しい店に連れて行ってもらい、魚と酒とで話は盛り上がった。カラオケをして日付が変わった頃に宿に戻った。

翌日、朝食をとり帰路に着いた。楽しい旅だった。

<其の8>いい汗!!!

今日は、炭焼塾に工務店の社長達が炭焼に来ていたので心配なので見に行く。06:30に起床して、リュックに準備してあった物をつめて、08:00に家を出発した。電車で高尾へ、そこからタクシーで恩方炭焼塾へ向かった。二人は、炭焼にカナリの時間がかかり大変だったと言っていた。雨が多く窯が温まり難かったのが原因だと思う。暫くすると、檜原<倉掛囲炉裏小屋>の仲間が恩方に置いてあった「気化式のトイレ」をトラックで取に来ていた。私もトイレの積み込み作業を手伝い、炭焼も終わりだったので社長達と別れた。

檜原の<倉掛囲炉裏小屋>に向かい、トイレの積み下ろしを手伝った。偶然にも、檜原に<新宿DAIGOどんぐり銀行>の皆さんを中心に30名程でどんぐりの植樹をしていると聞き、私も参加した。参加したが、私の任務は植樹ではなく植樹を終えて帰ってきた参加者の食事担当であった。地元の方にもお手伝い願って、買出しに行く。献立はけんちん汁と焼きそば等屋台料理である。食事の仕度には料理の得意な仲間も加わってくれて、順調に出来上がった。其の頃になると愚図っていた天気も回復してきた。参加者は植樹の疲れと満腹感から夕方前に帰路に着いた。私は、片付けをし<囲炉裏小屋>へ戻った。小屋の仲間も帰り仕度をしていたので、挨拶をして仲間の車で八王子までもどってきた。「やすらぎの湯」に浸かり家に戻った。 <今日はいいい汗かいた。>

<其の9>クライデンガルデン・ラウベ

今日は、檜原・共同村星の見える丘に、八王子エコプロジェクトのメンバー<八王子市職・建設ユニオン・NPO日本エコクラブ>で視察する。待ち合わせ場所の市役所へ向かう。役所前の弁当屋で稲荷寿司とお茶を買い市役所前で朝食をした。全員が揃ったので一路、檜原村へ!!

檜原に着くと村会議員の家にお邪魔し、自己紹介をして村会議員の案内で<星の見える丘・<クライデンガルデン・ラウベ>村づくりの候補地を視察した。メンバーが急遽呼ばれたので、村役場近くで別れた。私達は、<払沢の滝>近くの喫茶店でランチを食べて帰った。

<其の10>山梨に三太郎現わる!! 明野自然塾 ①

今日は、恩方の醍醐山房管理人夫妻と山梨県にある、「明野自然塾」を視察に行く日だ。早速、身支度をして前日に家族が調べてくれた列車に間に合うように家をでた。八王子発の特急あずさに間に合った。少しの合間に朝食稲荷寿司¥260とお茶・雑誌「サライ」を買い座席に座った。雑誌「サライ」の特集は<ふうてんの寅さん>、今日の私の出で立ちは、ズックの靴・帽子・半袖シャツ・リュックと平成版<寅さん>である。

自由席は混み合っていたが、旅という至高の時は「金は無いけど心は錦」と言った気分だとグリーン車に座った。この車両は空いていた。早速、買い込んだ寿司を頬張った。一番安い寿司をかい

高いグリーン車に座っている、このアンバランス差に笑いが出た。「自遊人炭焼三太郎」に酔いしれている。時折、車窓の風景を眺め旅に来たのだと気分に入る。

すぐに甲府を過ぎ目的地韮崎駅に着いた。管理人夫妻はジープで愛犬2匹と一緒に駅に来ていた。

＜其の11＞山梨に三太郎現わる！！明野自然塾 ②

一路、明野自然塾に向かう。暫く来ていなかったのが道に迷ってしまった。迷走しながらも何とか自然塾に辿り着いた。前に訪れた時と違い、入り口の道路はキチンと整備されていた。塾内の設備（ログハウス・トイレ・2つの炭焼窯）も整備されていた。恩方から持ってきて植えた山椒の木が大きく成長していた。管理人夫妻は、塾を気に入った様であった。

昼食は薬膳料理を食べる事にした、料理を食べながら「田舎生活」談義をした。帰りがけに温泉に入る事にした。温泉から見る景色は素晴らしかった。中で地元の常連客らしい中高年の一人が「明野はヒマワリの里で、日照時間が日本で一番長い」と説明してくれた。

温泉を出て、管理人夫妻の案内でケーキとコーヒーを食べて、明野を後に帰路に付いた。